

## 「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学法学部5年 越智 愛翔

## ①学習成果

今回の派遣に参加する前までは、今回の派遣により中国語が「ある程度」できるようになり、尚且つ、中国について「ある程度」知ることになる故に今後は中国に留学する必要が無くなると考えていました。しかし、それは大きな間違いであり、帰国後、2つの点について考えを改めました。

まず、中国語能力はある程度向上したものの、やはり現地の中国人の方々と話す中でもっと円滑に色々な話を中国語でしたい、と強く思いました。「ある程度」という限界を作らず、中国語を机の上だけでなく、中国人留学生や西安交通大学の学生たちと交流しながらもっと貪欲に勉強していきたいと考えています。具体的には、今回の派遣では相手の話していることは理解できても、私の返答が理解されないことが幾度かあったため、発音の勉強を徹底します。

次に、派遣前後で私の中国観が変わり、奥深い中国についてよりもっと知りたい為、また中国に留学等の形で行くつもりです。特に今度は今回のサマースクールの授業で知った雲南省を訪れてみたいです。なぜなら、少数民族が多い地域は少数民族が少ない日本との大きな違いの一つであり、尚且つ、中国を知るうえで必要な一面だからです。

最後に、以上のことから参加前後で自分の中で様々な変化があり、私の国際理解も広がりました。今後、西安交通大学の教授の方々が仰っていた「自分の目で見て判断する」ことを基本に、特に中国等のアジア圏についての理解を深めていきたいと思えます。

## ②海外での経験

ドイツ在住経験を持つ私にとって、先進国以外の国に1週間以上滞在することは初めてのことで衛生面の不備や車優先など、戸惑うことはありました。しかし、交流した中国人や今回のサマースクール参加者が素敵な人達で楽しい時間を過ごすことができました。また、上記の不備などに関しては中国語の授業の先生が「大都市等は先進国に倣って整備されてきているが、地域間の格差は大きい。また、人々の意識まではまだ浸透していない。そういう意味では発展途上であるが、今後数十年以内には人々の意識にも浸透しているだろう。」と仰っていました。この御話を聞いて、中国という国はある一つの場所・一面だけでは語れず、様々な場所・多面的に見る必要があると悟りました。

## ③プログラム内容

プログラムは、西安の名所観光と、中国語と日本語による伝統・現代の中国文化及び歴史や実践的な中国語会話講座の授業で構成されていました。多面的に中国及び中国語を学べる内容でした。

## ④進路への影響

中国語で仕事ができるよう努力したいと思います。